

平成30年12月10日

岩見沢市議会

議長 井 幡 修 一 様

会 派 名 政 和 会

代表者名 谷 口 洋 一

## 政 務 活 動 報 告 書

政務活動の使途項目	調査研究費
日 程	平成30年11月13日（火）～11月15日（木）
視察先・視察項目 （研修先・研修項目）	1. 静岡県富士宮市 ・フードバレー構想について 2. 東海大学海洋研究所（地震予知・火山津波研究部門） ・最新の地震予知研究について
議 員 名	谷口洋一、石黒武美、笹島清一、榎館竜哉、古石英仁、大和 勝
調 査 概 要	詳細は別紙のとおり

11月13日（火）静岡県富士宮市

●視察項目

フードバレー構想について

●視察受入対応者

富士宮市

●視察報告者

石黒 武美

## 1.静岡県富士宮市の概要

- ・総人口：133,904人（平成29年6月1日現在）
- ・面積：389.08㎢

富士宮市は、富士山の西南麓に位置し、富士山を御神体として平安初期に造営された富士山本宮浅間大社（全国の浅間神社1,300余社の総本宮）の門前町として、発展してきたまちです。昭和17年大宮町と富丘村が合併して、県内で7番目に市制を施行しました。

その後、昭和30年に富士根村と、昭和33年に北山村、上野村、上井出村、白糸村と、平成22年には芝川町と合併し、現在の市域となりました。市制施行時の人口は、34,010人、世帯数は6,058世帯でした。現在では、人口約13万3千人を数え、約5万5千世帯を有するまちへと発展しています。

## 2.調査概要について

フードバレー構想について

- ・フードバレー構想に至った経緯について
- ・食のネットワーク化による経済の活性化について
- ・食の情報発信による富士宮ブランドの確立について
- ・成果と課題について

## 3. 所感

富士宮市が有する自然環境の優位性（多種多様な食資源）を「富士宮ならではの」という視点からまちづくりに生かそうと、「食」を生かした産業振興と市民の健康づくりをめざして提唱。

富士宮市は、昔から焼きそばが住民から親しまれていました。平成12年以前、まちおこしグループが何かまちおこしするものはないか、若手グループが調べたところ、

昔から焼きそばが自然に親しまれていたことから始まりました。

平成13～21年、439億円の経済効果（焼きそば、野菜、東京からはとバスツアー 年間250万人前後のお客様が来ている）、B1グランプリ（第1回第2回グランプリ）優勝。一貫してきたことは、行政から補助金にたよらず自分たちの手で作り上げてきていること。

岩見沢市でも昔から親しまれている食材を生かしたまちおこしの可能性があるかもしれません。

11月14日（水）東海大学海洋研究所（地震予知・火山津波研究部門）

●視察項目

最新の地震予知研究について

●視察受入対応者

東海大学海洋研究所（地震予知・火山津波研究部門）

●視察報告者

石黒 武美

## 1.東海大学海洋研究所の概要

東海大学海洋研究所は、1947年に清水市に創設された東海科学研究所の一部門「水産研究部」が前身であり、1959年に「水産研究所」と改称、1962年には海洋学部が設置されました。

1966年に現在の名称「海洋研究所」となり、以来、海洋学部の学科間にまたがる共同研究を企画運営する部門として活動をしています。1976年に沖縄に西表分室を（1981年より沖縄地域研究センターとして独立・別組織に）、1978年には海洋生物センターを、1995年に地震予知研究センターを、さらに2008年に水族生態研究センターが設置されました。

2016年4月に、大学全体の研究所の改組の一環として上記3研究センターは「海洋観測研究部門」「地震予知・火山津波研究部門」、「海洋生物研究部門」の3部門に再編されました。

## 2. 調査概要

最新の地震予知研究について

- ・動物を使った地震予知について
- ・北海道地震について

### 3. 所感

南海トラフ沿い、千島海溝、いずれの領域で地震が発生するか、複数の領域で同時に発生するか、発生する地震の領域や規模を住民が避難行動を起こせるレベルの確率で予測するのは現状では困難ですが、電離層電子密度の監視、深部低周波微動の観測、DONETをはじめとする海底リアルタイム地震活動の監視などが可能となっており、複数の先行現象を検知し組み合わせて予測確率を上昇させる戦略を立てる必要があります。

来るべき大地震に備え、地震防災、危機管理、BCPに注視し、行政は常に情報発信を行い、学習化する必要があります。